

令和5年度 学校評価報告書

学校番号(小45) 長崎市立(三原小)学校

1 教育目標

「誇りをもち、主体的で、自律できる子どもの育成」
～安全・安心を大切に作る三原っ子～

2 学校経営方針

(1) 豊かな心(笑顔)の育成
 ●特別の教科「道徳」の授業実践の充実 ●特別支援教育の理解と充実 ●「あ・は・は運動」 ●仲良く触れ合いあいさつの定着 ●「さ・し・す・せ・そうじ」の徹底 ●こころの天気・学校適応感尺度ASSESS ●あったか言葉の醸成 ●「はさみあるき」の徹底 ●くつならべの徹底 ●「三原っ子の約束」の確認と活用

(2) 確かな学力(真剣)の育成
 ●「主体的・対話的で深い学びの実現」 ●本校独自の「学びのスタイル」の確立 ●単元を見通した授業づくり(全教科) ●「対話」を取り入れた学びの工夫 ●「学習の約束・心構え」「家庭学習の手引き」の確認と活用 ●ICT活用

(3) たくましい体力(感動)の育成
 ●体育の授業改善による体力向上 ●運動の習慣化 ●健康づくり ●食育

3 重点目標

(1) 豊かな心(笑顔)の育成
 ・道徳教育の充実と推進 ・特別支援教育の充実 ・基本的な生活習慣の形成と自発的な実践態度 ・思いやりのある心豊かな子どもの育成 ・新しい平和教育の理解と実践・いじめ対策基本方針に基づいた確実な対応・実践 ・係・委員会活動、及び「なかよしタイム」の活性化 ・児童会活動における自治力の高揚 ・「あ・は・は運動」の習慣化

(2) 確かな学力(真剣)の育成
 ・授業改善による学力向上 ・「あじさいスタンダード」の具現化、充実を推進 ・「言語活動」の重視 ・授業研究による指導力の向上 ・基礎的・基本的な学習内容の定着(基礎学力の定着) ・図書館教育の充実 ・外国語活動の指導の充実 ・校内研修の活性化

(3) たくましい体力(感動)の育成
 ・運動に親しむ態度の育成 ・保健的習慣の確立 ・安全教育の推進 ・給食習慣の確立と感謝の気持ちの醸成 ・アレルギー児童への確実な対応 ・定期的な縦割り遊びの実施 ・外遊びの奨励 ・「あじさいスタンダード体力づくり編」の具現化、充実を推進

4 自己評価

| 領域 | 項目 | 質問内容 | アンケート結果 | | | 分析及び改善策 |
|------------------------|-----------------------|---------------------------|-----------|------|------|---|
| | | | (肯定的割合・%) | | | |
| | | | 児童生徒 | 保護者 | 教職員 | |
| 学校経営 | 教育目標 | 教育目標を達成している | 94% | 84% | 100% | 学校は楽しいですかの質問に対し、9割の児童が肯定的なとらえ方をしている。楽しくないと答えている児童も一部いる。ASSESSの1回目と2回目の結果の変化を確認し、個別の対応をしていく必要がある。 |
| | 学校の雰囲気 | 明るく楽しい雰囲気である | 90% | 87% | 100% | |
| | 組織運営 | 校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している | | | 100% | |
| | 業務の改善 | 校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している | | | 100% | |
| 心の教育 | 生活・生徒指導 | ルールやマナーを身に付けている | 96% | 92% | 100% | ○ほとんどの項目において1学期より肯定的評価の割合が高くなっている。特に児童の「挨拶をよくしている」では7%、「いじめ防止のための対策をとっている」では8%の上昇が見られた。毎朝の挨拶運動や児童会の具体的な取組、生活目標の毎月の数値を用いた明確な振り返りでの意識化が有効に働いていると考えられる。「教育的ニーズに応じた教育を行っている」に関しては、教職員の肯定的評価が75%となっているが1学期の57%から考えると大きな改善が見られた。ASSESSの各学級の教師サポートの数値が大きく上昇したことから見てとれる。SCとの連携、巡回相談の実施など計画的継続的な実施は大きな成果である。 |
| | | 挨拶をよくしている | 91% | 87% | 100% | |
| | | 「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ) | 94% | 94% | 100% | |
| | | 教職員は悩みや相談に親身に対応している | 92% | 89% | 100% | |
| | いじめ防止対策 | 学校はいじめ防止のための対策をとっている | 92% | 83% | 100% | |
| | 人権教育 | 生命や人権を尊重しようとする心が育っている | 97% | 96% | 100% | |
| | 平和教育 | 平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている | 99% | 92% | 88% | |
| 特別支援教育 | 学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている | 99% | 83% | 75% | | |
| 確かな学力 | 特色ある学校づくり | 伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている | 98% | 91% | 75% | ○「わかりやすい授業」「家庭学習の習慣」「キャリア教育の充実」について、児童、教職員の肯定的評価が良好なものに対し、保護者の評価は3項目とも8割を下回っている。特に家庭学習に関しては、今年度、ICTの活用により大きく変化をした分野である。教職員の評価が1学期の71%から100%に上昇しているのは、どの学年においても「Qubena」の活用が浸透してきたからであると考える。これからのICTの活用と学びのスタイルについて、保護者への理解と協力をさらに深めていく必要がある。 |
| | 学習指導・教育課程 | わかりやすい授業を行っている | 93% | 79% | 100% | |
| | | 家庭学習の習慣が身に付いている | 91% | 75% | 100% | |
| | キャリア教育 | 将来の自立に向けて適切に指導している | 86% | 75% | 88% | |
| 長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである | | 94% | 87% | 100% | | |

| | | | | | | |
|---------|------------|-------------------------------|------|-----|------|---|
| 健やかな体 | 保健・衛生 | 衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている | 98% | 94% | 100% | ○ 「健康」「食育」とともに3者の評価は高い。体力向上に関しては、20名程度の児童が体を動かすことに苦手を感じており、家庭への啓発も含めた継続的な取組を実施する必要がある。また、「基本的な生活習慣」に関しても、88%の児童が肯定的評価を示している一方で20名ができていないと回答している。育友会とも連携しながら、「家庭生活アンケート」等を実施し、原因を解明するとともに具体的な改善策を講じていく必要がある。 |
| | 体力向上 | 早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている | 88% | 87% | 88% | |
| | | 体力向上に努めている | 87% | 82% | 100% | |
| | 食育 | 食に関する教育活動を行っている | 95% | 93% | 100% | |
| 信頼される学校 | 安全管理 | 児童生徒の安全に気を配っている | 100% | 94% | 100% | ○ 情報提供の項目では、教職員の肯定的評価が63%に対して、児童・保護者ともに高評価である。9月に運用を開始した「tetoru」での配信が有効に働いていると考えられる。地域との連携については、夏休みの「みんなでラジオ体操」、放課後の時間に体育館で開催した「ダンス教室」放課後子ども教室を中心としたふれあいセンターでの祭りへの参加など活動場所や内容の工夫により児童の肯定的評価も8割を越えた。 |
| | 情報提供 | 学校の状況は通信やHP等で知ることができる | 96% | 94% | 63% | |
| | PTA・地域との連携 | 学校はPTAや地域との連携がとれている | 80% | 96% | 89% | |
| | 職員資質向上 | 研修が充実し、資質が向上している | | | 89% | |
| 教育環境 | 環境整備 | 教育環境が充実し、整備されている | 98% | 86% | 90% | ○ 校内の環境整備は計画的に継続している。1学期にの体育館の屋根の補修により、渡り廊下の雨漏りはなくなった。ターザンロープの改修を終えた。児童の更衣について工夫をしながら環境を整備してきたところではあるが、普通教室の増加を見越した対策が必要である。 |
| | 職場環境 | 学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる | | | 80% | |

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

- 昨年度の課題であった「住んでいる地域が好きである」「学校はPTAや地域と連携が取れている」の項目においては改善傾向がみられた。育友会・育成協の各取組の中で「つながり」を意識した声掛け・工夫・広報などをしていただいたことが成果につながったと思われる。
- 確かな学力の項目において、三者の評価に差がみられる。児童・教師の評価は高く、保護者の評価は70%台にとどまっている。児童・教師の学びに前向きに取り組んでいるという評価であるが、保護者は理解や定着に結び付いていないという意識があると考えられる。
- 全体的に児童・教職員の評価は高く、保護者の評価は低い傾向にある。記述式の要望の中でも挙げられたように、教師と保護者の連携の場として懇談会や面談を増やすなど直接話す機会を増やしていく必要がある。

6 学校関係者評価

- 昨年度の課題として挙げられていた項目について改善が見られたのは大きな成果。
- 確かな学力の項目において保護者の評価が低いことをうけ具体的な手立ての提示をし基礎的な学力の定着に向けた協力体制の確立が必要。
- 学級・学校内での取組を十分に説明する場が必要。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- 学校の取組への理解と協力を得るため、教師と保護者が意見を交換する場を充実させる。懇談会や個人面談を増やし、直接対話できる場を設けていく。
- 基礎学力の定着のためには学びに向かう姿勢を育てていく必要がある。「発達段階に応じて、宿題から自主学習への比重を大きくしていくことの説明と具体的取組の実施。」「学習の個別最適化のためのA Iドリルのさらなる活用。」において重点的に取り組む。
- 育友会主催の家庭生活アンケートより「読書の充実」は喫緊の課題である。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。
 <参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。